

ツバメに信頼された家

6 月中旬のこと。会社帰りのバスの窓を、素早く横切る物体が!「なんだろう」と外を見ると、バス通り沿いに5軒立ち並ぶ分譲住宅の右から2軒目の玄関わきの車庫に、ツバメの巣を発見した。巣には、4羽の子ツバメが元気に大きく口を開けている。横切ったのはえさを捜しに行った親ツバメ。久しぶりに見る光景だった。

車庫の車は撤去され、巣の下や車庫の入り口にはロープが張りめぐらされていた。家人が、カラスなどの外敵から巣を守るために、張ったに違いない。そして、巣の真下の床には、子ツバメたちの白い糞が大量に落ちていた。

子どもの頃、近所にツバメの巣があるおばあちゃんの家があった。「ツバメは、巣をつくる家の人がいい人かどうか判断するんだよ。どうやら私は合格したらしい」と教えてもらった記憶がある。

ツバメが巣をつくる家は縁起がいい、幸運が訪れるという言い伝えがあるのは、ツバメが外敵から身を守るために、人のそばに巣をつくることにある。カラスなどは人を怖がることから、人の気配がある、風通しの良い爽やかな環境で、巣を壊さないやさしい

人がいる場所、そんな家に巣をつくるらしい。

そういえば先月、JR鎌倉駅の改札の上にある煙感知器にツバメが巣をつくったことから、8列ある改札のうち巣の真下にある1列を閉鎖。「巣立つまで温かく見守って下さい」と乗降客に呼びかけている新聞記事を読んだ。閉鎖した改札前にはコーンが置かれ、『ツバメ子育て中 (Swallows are raising children)』と書かれた日本語と英語の張り紙が。インバウンドなどの観光客で賑わう鎌倉駅の粋な計らいとして、心温まる話題となった。

ツバメの巣を発見してから数週間後、巣に子どもたちの姿が見えなくなった。無事に巣立ってくれたらしい。車庫のロープは撤去され、車がとめられていたが、おわん型の巣はそのまま残されていた。再びの訪問(南の国から飛来する渡り鳥のツバメは、元の巣に戻って来ることも多い)を待っている様子が伺われ、心がほんわか温かくなった。

ツバメに選ばれし〇〇家の皆様、ご苦労様でした。そして、ありがとう。

さて、我が家にツバメの巣がつくられる日は訪れるだろうか。



ミニ・ニュース

当コーナーのイラストを担当している安彦麻理絵さんは、漫画家でエッセイスト。突然押し寄せてきた更年期体験を赤裸々に描いた『生理終了!と聞いたら、更年期メンタル、私なりの付き合い方』(竹書房・1,430円税込)が8月8日に出版されます。今や男性も更年期に苦しむ時代。50代前後の皆様におすすめです。

